

一般演題6-1

高気圧酸素治療の診療報酬改定により治療継続困難となった1例

稲垣伸洋 中島竜太 高崎智美

大分市医師会立アルメイダ病院 救急・集中治療科

【背景】

この春の診療報酬改定で、高気圧酸素（以下HBO）治療の診療報酬が大幅に引き上げられた。「診療報酬点数が低すぎる」と声を上げてきた業界関係者の苦労がやっと報われた形である。当院での2017年度のHBO治療実績は、総件数908件、入院症例に限ると700件の実施実績であった。この700件の内訳は救急適応59件、非救急適応は641件、その算定額は前者では59件×5,000点=295,000点（295万円）、後者は当院がDPC病院であることより算定0点となっていた。改定後の診療報酬点数で算定しなおすと、減圧症空気塞栓3件×5,000点=15,000点、その他のもの697件×3,000点=2,091,000点、合わせて2,106,000点（2,106万円）と約7倍の大幅な増収となる。一方で今後、国内で休止中の装置を再稼働させてのHBO治療が積極的に実施されることも見込まれており、関係学会を中心に安全の確保への様々な取り組みがなされているところである。本学会でも安全情報の提供や高気圧酸素治療安全セミナーの開催などがなされている。このように診療報酬改定には良い面もあれば悪い面も存在する。今回我々は、患者の治療継続の希望があるにも関わらず、診療報酬改定に伴い治療継続をすることが出来なくなった症例を経験した。

【症例】

全身性強皮症（SSc）と診断されている30代女性、2017年冬に右第2・3指PIP関節突起部の半米粒大の深い潰瘍と左第4趾外側の点状潰瘍を合併、二次感染を反復することより当院でHBO治療を実施することとなった。2～3回/週のペースで外来通院にて非救急的適応の「2. 難治性潰瘍を伴う末梢循環障害」で治療を行った。本人も皮膚が柔らかくなって楽になると喜んでいて、潰瘍も改善傾向が診られた。10回1クール、改善すれば休止、悪化すれば再開の方針として

当初は治療回数の上限を設けてはいなかった。2018年3月末に28回目の治療を実施。4月上旬に次回予定を入れることとなったが、以降は診療報酬改定後の算定で行われることとなった。「次の疾患に行う場合に、一連につき30回を限度として算定する」の「エ 難治性潰瘍を伴う末梢循環障害」で治療を継続したが、治療上限を30回と規定されてしまったため、患者本人にも4月より治療回数に上限が設けられた事情をご説明、患者には治療継続の希望があったが4月末に41回目のHBOで治療終了となった。

【まとめ】

2018年4月の診療報酬改定でHBO治療の診療報酬が改定された。収益は大きく増収となることが予想される反面、休止中の装置を再稼働させてのHBO治療の増加が見込まれ、安全運用に支障を来す恐れがある。また今回の改定では慢性疾患に付随した症状に対する治療の継続が困難になる欠点が挙げられる。このように診療報酬改定には常に利点と欠点、光と影が存在する。いかなる診療報酬の改定であれ、改定の際にはその医学的・社会的影響を客観的、多角的に評価し、対応する必要がある。その評価を分析し、国民がさらに良い医療を受けられる様に次なる診療報酬改定で改善が得られるように声を上げていく必要がある。